

沖縄プロジェクトレポート II

東京土建渋谷支部 書記 工藤真由

2022年4月28日木曜日、目黒支部の堀田さんから、第4回目となる沖縄プロジェクトのお誘いLINEが届きました。日程は7月3～5日の日月火。渋谷支部は4日が終日書記局会議。でも行きたい。高木主任書記に、完璧な執行委員会議案を仕上げる約束をして、有休を取得しました。

6月21日火曜日、仕事を定時で上がり、目黒支部会館へ沖縄ツアー説明会に向かいました。到着すると、日下書記から「ウェルカムドリンク」とまさかのオリオンビール。自己紹介、根井書記の旅程説明を終え、千葉整子さんの絶品沖縄料理がテーブルに並び、泡盛の古酒が振る舞われました。久しぶりに会った懐かしい戦友たちと、これから一緒に闘う新たな仲間達。私にとっては2度目の参加です。前回2019年の体験が鮮明過ぎて、あの時以上に何かを掴めるのか、違う視点を持てるほど自分は成長出来ているのか、少し不安でした。

※1回目のレポートで沖縄の現状を載せていますのでぜひご覧ください。



7月3日～5日、沖縄。予想していた通り、いっぱい笑っていっぱい泣いた。一瞬前までみんなと笑っていたのに、沖縄戦・米軍基地・そこで生きる沖縄の人々の生活に意識が向いた瞬間、苦しくなって涙が出たりした。台風4号の影響で雨と晴れが繰り返される、沖縄の空みたいでした。



戦死者の名前が刻まれた平和の礎



沖縄戦で多くの住民が飛び降りた崖



遺骨収集体験者の手記が館外に掲示されていた

台風によりスケジュールが変更され、初日は沖縄平和祈念資料館へ行く事に。貴重な、膨大な資料。野ざらしにされている住民や軍人の遺体写真を見ました。無数に蛆が湧いていた。亡くなっているから、もう意識はないよね、辛くはないよね、と思うと同時に、生き物の尊厳を奪い尽くす戦争と、それを起こす権力者への怒りに震えた。こんな悲しい写真を見たくない、なぜ自分はこの場所にいるのか、途方に暮れて、逃げ出したいくなりました。資料館内は撮影禁止でした。そろそろ日本もOKにして欲しい。ここに来られない人達にも知らせたい。



東村高江。世界自然遺産に登録された、やんばるの森。長い年月をかけて作られた、神秘の森。オスプレイパッド建設のために木々が伐採され、垂直離着陸をするオスプレイの噴射熱で草が枯れ、赤く焦げた地面が広がっていました。すぐに組合員さん達が銃弾の薬きょうを見つけました。恐がる私に組合員さんは「大丈夫だよ」と言いました。自然の中、生活の中に武器が入り込んでいました。



森を切り抜いて作られたオスプレイパッド



薬きょうを発見



監視小屋で皆がTシャツを購入

オスプレイ監視小屋を激励訪問。みんなが支援Tシャツを買っている間、涼しい部屋を探していました。小屋の当番をしていた女性に見つかり、冷たい麦茶を頂きました。「ここは初めて？あなたは運がいいね、ちょうど美味しいカステラがあるよ。あなたみたいな人を沖縄では“あたいがふー”と言うの。幸運、ラッキーガールという意味ね。でもそれは、ここに来る運命から逃れられないという事でもあるの」。帰りに「これはプレゼントね。この子のイメージはあなたにピッタリ」と、転がるウンチに驚いているウサギを笑うタヌキの絵のハンカチをくれました。犬や猫、海の生き物のハンカチもあったのに、短時間で性格を見抜かれた、と思いました。

3年ぶりの、辺野古座り込み。2019年に沖縄プロジェクトメンバーと座り込んだ後、同年に父親の還暦旅行で沖縄を訪れ、家族でも座り込みをしました。3回目なので経験者です。無表情な民間ガードマンさんの顔から汗が吹き出していました。機動隊の青年の冷徹な目がサングラス越しから見えました。私達の目標は、土砂の搬入、基地の建設を1秒でも遅らせる事。一人一人の1秒を積み上げて、基地の建設を諦めさせる事。日傘を差してパイプ椅子に座り、奥山さんから買ってもらったアイスコーヒーを飲みながら、1秒1秒を過ごしました。



辺野古ゲート前での座り込み



退去を呼びかける機動隊



タンク搬入後は「ワッショイ！」とぐるぐる回る





同じ人間だよ、と知って欲しくて、機動隊の青年と沖縄料理の話や旅行の話をしました（始めは無視されましたが、「前回来たときは機動隊の人話してくれましたよ」と言ったら会話してくれました。今回の彼は、好きな料理はゆし豆腐。東京に2回遊びに行ったのにスカイツリーしか記憶にないそう）。

海から基地の建設現場を見ました。大所帯なので、3回に分かれて平和丸に乗船。私の乗る順番は最終便、待ち時間がたっぷり。辺野古の空、海、砂浜を見渡す白いテント。椅子に腰かけ、最近大阪から辺野古に帰って来た女性が弾く三線を聴いていました。私も三線を借り、唯一なんとなく覚えている「ていんさぐぬ花」と、メロディーだけの「ローズ」を延々弾かせてもらいました。波は静かで眩しくて、ここまでは建設現場の重機の音も聞こえず、幸せで悲しい時間でした。米軍基地建設を中止し、このテントがなくなるまでここに来よう、ずっと来よう。



平和丸乗船前



監視船がどこまでもついてくる



辺野古の海を見つめる堀田さん

3日間、私の乗った4号車は、堀田さん・山本さん・糸さん・佐藤勉さんという超ご機嫌メンバーでした。アルファードの快適さは、山本さんの安全運転のおかげです。堀田さんの、要所を逃しそうに逃さない撮影への執念は、運動を伝え広げる書記の鑑です。車窓から海を見ようとすれば隣に糸さんがいて、勉さんと面白い掛け合いをしている。最終日はさらに根井さんも加わり、牧志市場で昼酒を飲んだ私達酔っ払いを空港まで運んでくれました。



嘉手納道の駅で夕飯前にビールとあんだぎー



今回はグルケン唐揚げをサービスしてくれた



根井さんは沖縄で初めて海に入れたそう

居酒屋やバーベキューでの皆さんとの大交流会や部屋飲みも、凄く楽しかったです。喧嘩したり笑顔になったり手を繋いだり。この旅を振り返ると、ずっと人間を観察させてもらっていた気がします。夕陽を見て泣いたり、その涙



を見て鳥肌が立ったり、人間って不思議です。以前、友人が「繋がろうって言葉が好きじゃない。繋がっていない事が前提な気がするから」と言っていました。でも、私は繋がっていない事が前提だと思う。だから繋がっていく事がこんなに面白い、どんどん広がっていく。40年生きて、悟れたのはまだここまです。



ホテルでバーベキュー



皆の感想を動画に



この後も楽しい部屋飲み

高江の小屋に「いつでも愛とユーモアを」と書かれた看板がありました。沖縄プロジェクトそのものです。大切な体験をまた、させてもらいました。本当にありがとうございました。来年もぜひ、沖縄で会いましょう。

【日本国憲法】

第九条

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

第九十七条

この憲法が日本国民に保障する基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であって、これらの権利は、過去幾多の試練に堪え、現在及び将来の国民に対し、侵すことのできない永久の権利として信託されたものである。

【自民党憲法改正草案】

第九条

日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動としての戦争を放棄し、武力による威嚇及び武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては用いない。

2 前項の規定は、自衛権の発動を妨げるものではない。

第九十七条 削除



前回同様、虹を見せてくれた沖縄の空